

交野史跡めぐりコース

★倉治コース 「渡来人、いにしえの人々の足跡をたずねて」

令和4年10月14日（金）10時 倉治図書館集合

倉治図書館出発 ⇒ 1.交野市立教育文化会館 ⇒ 2.大仏町 ⇒ 3.二平川の洗い場 ⇒ 4.二月堂灯籠 ⇒ 5.加地家（中には入れません） ⇒ 6.機物神社 ⇒ 7.夜泣き石 ⇒ 8.源氏の滝 ⇒ 9.古墳塚 ⇒ 10.蟹川の泉 ⇒ 11.清水谷古墳 ⇒ 倉治公民館へ

★ガイド：榎田 恵 ★ガイド資料作成：山崎美加

1



○交野市立教育文化会館

- ◆昭和4年（1929）交野無尽金融株式会社の新社屋として建てられた鉄筋コンクリート2階（一部3階）の建物である。外壁には「スクラッチタイル」がはめこまれ中世城郭風の造りとなっている。
- ◆平成19年、国の登録有形文化財となった。
- 歴史民族資料展示室として利用されている。
- ◆会館の南側に同社の創設者で、土地と建物を交野町に寄贈した金澤泰治氏の銅像がある。

2



○大仏町（だいぶつちょう）

- ◆教育文化会館の前を南に抜けると緩やかな下り坂になっていて大仏坂という名前がついている。
- ◆時期は不明だが、倉治の入口には、大仏を安置する寺が建っていたと伝えられ、堂前と呼ばれていた。
- 大仏町一帯が、寺の境内であったと思われる。
- ◆町名の由来は、私部からの参拝者がこの坂を登って来たためとも、奈良東大寺の大仏を造る工人がこの地を通ったためともいわれている。

3



○二平川の洗い場

- ◆倉治の集落を流れる二平川で、昭和50年（1975）頃まで使われた村の洗濯場の一つで保存状態が良い。
- ◆石段を降り、川を挟んで北側に洗濯物を敲（たた）いた敲き台の石が5枚並んでいる。
- ◆この洗い場は、隣近所との語らいの場でもあり、日々の暮らしになくてはならない場所であった。

4



○二月堂灯籠

◆二月堂の講中によって 1837 年に建てられたもの。

◆正面には「二月堂」、左には「村中安全」。

裏には「天保八酉歳春二月」とある。

◆「講」とは、寺社などを信仰してお参りするグループ、「講中」とはそのメンバーのことをいう。中世ころから日本国中で盛んになった。

◆昔、倉治村にも、奈良東大寺二月堂を信仰する講があり、積み立て金で代表者が「村中安全」祈願のために参拝に出かけた名残の灯籠である。

5



○加地家 (かじけ)

◆倉治は、交野山のクラ (崖) 下に位置しており、渡来系の一族が、朝廷より交野忌寸 (いみき) の姓を与えられ繁栄し多くの倉が建ち倉治といわれたともいう。

◆加地家には江戸時代からの文書が多数残されており、その家屋にも歴史的な佇まいが残る。

6



○機物神社 (はたものじんじゃ)

◆1300 年以上の歴史のある倉治地区の氏神様。

機物神社は、もと、この地の祖先で機織の技術を伝えた渡来人、漢人庄員を祭神としていたとされる。

◆桓武天皇が長岡京へ遷都の時、交野が原で郊祀を行ったのをきっかけに、交野が原は、平安貴族の遊獵地となり、当時盛んだった天体崇拜や文学趣向から、祭神は、織女星の棚機姫 (たなばたひめ) に変わったとされる。

◆「霞を織る織姫」の伝説が伝わり、7月6日、7日は七夕まつりが盛大に行われ、非常に多くの人が訪れる。

◆境内には、七夕まつりゆかりの、梶の木、たらようの木が植えられている。



7



○夜泣き石

◆平成の初めまで、滝の下流に鏡池があった。池の北東端にあった丸石が「夜泣き石」で、河川改修で現在地に移された。

◆石には悲しい伝説がある。(「伝説の河内」)

昔、このあたりに美しい源氏姫と弟・梅千代が住んでいた。ある時、梅千代が山賊に命を奪われたので、その頭を源氏姫が殺す。すると、その頭は、実は、実母だったとわかつて悔やみ、滝に身を投げたという。

以来 夜な夜な、滝の側の石から泣声が聞こえるという。

8



○源氏の滝

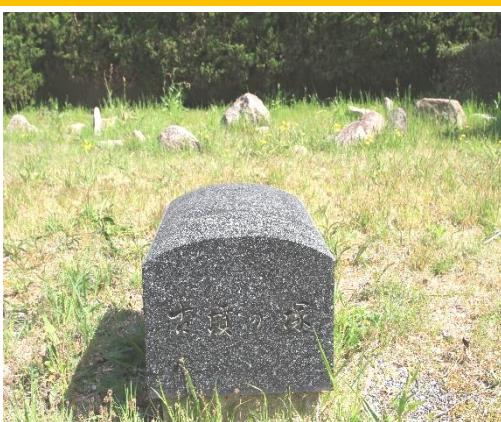
◆滝の名前は、開元寺の元寺が、もとになったとも言われる。白旗池からの渓流が流れ落ちて滝となる。高さ約17.5m。

◆この滝は修験者が修行を終えると最後に身を清めた神聖な場所だった。

◆滝に向かって左側の岩に不動明王をあらわす梵字「カーンマーン」が彫られている。通常、滝などには、修験者を護るとされる不動明王の石像がまつられるが、あえて抽象的な梵字で「カーンマーン」と彫られてあり施主の精神性の高さがうかがえる。

◆交野八景の一つ「源氏滝の清涼」に選ばれている。

9



○古墳塚と倉治古墳群

◆昭和26年、関電枚方変電所建設中、八基の古墳が発見され、石室から、被葬者の遺骨のほか、金環や勾玉の装身具、刀剣、農機具等の鉄製品、瓶、壺等の土器が副葬品として出土した。

それらは、倉治の歴史資料館に展示されている。

◆この古墳群は、約1300年前、倉治一帯に繁栄したとされる機織り專業の渡来系集落の村長たちのものと判断される。

◆遺骨は、関西電力株式会社によって通用門の東側の事務所跡地に埋葬され、古墳塚と呼ぶことになった。

◆その塚の北側には、損壊した石室の石を、「心」の字形に配置している。

10



○蟹川の泉（かにかわのいずみ）

- ◆地下 6m岩石と小砂の層から湧き出る「蟹川の泉」、この泉は年中 15 度で名水として知られる。
- ◆倉治地区の老人の話によれば、この泉は「末期（まつご）の水」と呼ばれる。いよいよ、あの世からお迎えが来ると家の若い者が桶を持って汲みに来て「末期の水」としたという。
- ◆おしえい水ともいわれ、この水で顔を洗えばおしえいがいらないそうだ。

11



○清水谷古墳

- ◆古墳時代後期の横穴式古墳。石室が露出し、覆屋をかけて保存している。
- ◆昭和 42 年、ミカンの植樹時に偶然発見された。
- ◆調査にて室内より金環や人骨が出土、その他弥生土器片、土師器皿等が出たが、他所から持ち込まれたものと判明した。
- ◆墳丘は復元、径 12m程度。付近にも埋もれた古墳があると思われる。